

A：達成見込み、B：おおむね達成見込み、C：達成困難

01-01 循環型社会の形成

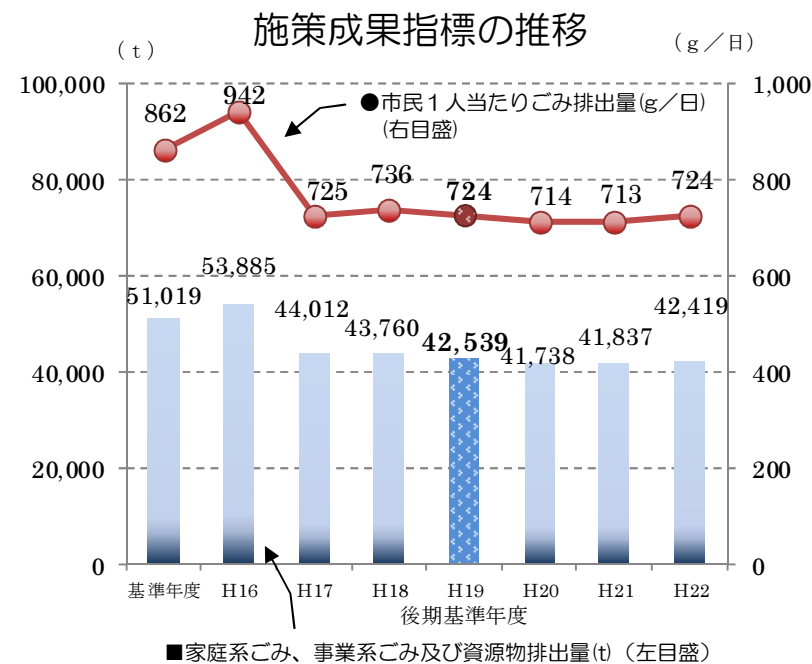
目的	市民・事業者・行政の協働により、資源がリサイクルされ、ごみ排出量が減ることにより環境負荷の少ないまちを目指します。				
対象	市民、事業者、行政				
成果指標 (施策の目的達成度を示す指標)	後期基準値 (平 19 年度)	現状値 (平 22 年度)	見込値 (平 25 年度)		後期目標値 (平 25 年度)
家庭系ごみ、事業系ごみ及び資源物排出量(t)	42,539	42,419	41,990	B	41,966
市民1人当たりごみ排出量(g/日)	724	724	717	A	720

前期基本計画取り組み結果

環境負荷の少ない循環型社会の実現に向け、平成16年10月に家庭ごみを有料化し、ごみの減量とリサイクル推進を図っています。

平成19年4月からは、資源物の有効利用をより進めるため、リサイクルセンターの運営管理を委託しました。また、10月からは、民間の創意工夫を取り入れた経費効率化と、ごみの適正な処理を進めるため、環境クリーンセンターの長期包括的運営管理委託を行っています。

これらにより、「家庭系ごみ、事業系ごみ及び資源物排出量」、「市民1人当たりごみ排出量」は、ともに大幅な減量となっています。



後期基本計画の取り組み状況と目標達成見込みの説明

これまで循環型社会の形成を目指した取り組みを進めてきたことから、基本事業のごみの発生・排出の抑制におけるごみの排出量については減少の傾向が続いており、資源ごみなどを含めた家庭系ごみの排出量については成果指標の後期目標を達成できる見込みですが、事業系については近年増加傾向を示しており、成果指標であるごみ排出量については後期目標を達成することが困難な見込みであるため、生産、流通、販売等の各段階での3R（リデュース、リユース、リサイクル）の理解と推進を図っていきたいと考えています。また、ごみ資源化の推進については、資源化率は全国・全道の数値を大きく（H20-20、3%、19、4%）を上回っているものの、新聞等の資源物の民間事業所による収集の増加や、資源化率の高い割合を占めるごみ処理時に生成されるスラグの路盤材としての使用が道路工事量の減少等により伸びていない状況にあることから、基本事業の回収資源化量、資源化率ともに成果指標を達成することが困難な見込みであるため、今後は、自治会集団資源回収などの啓発に取り組んでいきたいと考えています。

適正なごみ処理の推進・啓発については、不法投棄の処理件数はおおむね後期目標を達成できると考えていますが、不適正排出の処理件数は、パトロールの強化、ごみ分別遵守に力を入れた結果、発見数が増え、処理件数の減少につながらなかったことから、成果目標の達成は難しいものとなっていますが、今後も防止対策として広報えべつ、ごみコミえべつ、ホームページなどでの啓発や不法投棄の多い場所には防止看板・のぼりの設置について取り組んでいきます。環境クリーンセンターの運転停止日数については、計画的な保守・点検の実施などにより、後期目標を達成できると考えています。

後期目標の達成が困難な基本事業もありますが、成果が上がっている基本事業の取り組みにより施策の成果指標においては、おおむね後期目標を達成できると考えています。

基本事業01-01-01 ごみの発生・排出の抑制

目的	市民・事業者それぞれが、過剰包装の廃止や生ごみの堆肥化など製造・流通、消費過程での改善を行い、ごみを「つぐらない」「ださない」ことにより、ごみの発生量・排出量を減らします。									
対象	市民、事業者									
成果指標	家庭系のごみ排出量(t)	後期基準値(平19)	32,575	現状値(平22)	32,140	見込値(平25)	31,920	A	後期目標(平25)	32,050
	事業系のごみ排出量(t)		9,964		10,279		10,070	C		9,916

基本事業01-01-02 ごみ資源化の推進

目的	市民・事業者それぞれが、分別収集やリサイクルなど積極的にごみの資源化を推進することにより、再利用・再資源化率を増やします。									
対象	市民、事業者									
成果指標	回収資源化量(t)	後期基準値(平19)	10,883	現状値(平22)	11,058	見込値(平25)	11,500	C	後期目標(平25)	12,836
	資源化率(%)		25.6		26.1		27.4	C		30.6

基本事業01-01-03 適正なごみ処理の推進・啓発

目的	市民・事業者環境意識の啓発を行い、地域全体で適正なごみ処理が行われるようにします。また、ごみの収集・運搬・処理・処分について効率的かつ適正に行い、安全・快適な生活環境をつくりまします。									
対象	市民、事業者、行政									
成果指標	不法投棄処理件数(件)	後期基準値(平19)	97	現状値(平22)	84	見込値(平25)	90	B	後期目標(平25)	87
	不適正排出処理件数(件)		501		559		530	C		450
	環境クリーンセンター運転停止日数(日)		10		2		5	A		11.2以内

A：達成見込み、B：おおむね達成見込み、C：達成困難

施策01-02 人と地球にやさしい環境の創出

目的	市民や事業者が環境負荷の少ない生活を送ることを心がけることにより、安全で快適な生活環境を目指します。			
対象	市民・事業者			
成果指標 (施策の目的達成度を示す指標)	後期基準値 (平 19 年度)	現状値 (平 22 年度)	見込値 (平 25 年度)	後期目標値 (平 25 年度)
地球にやさしい生活をしている市民割合(%)	83.3	(H21)83.4	85.0 B	↗
公害発生件数(件)	0	0	0 A	0

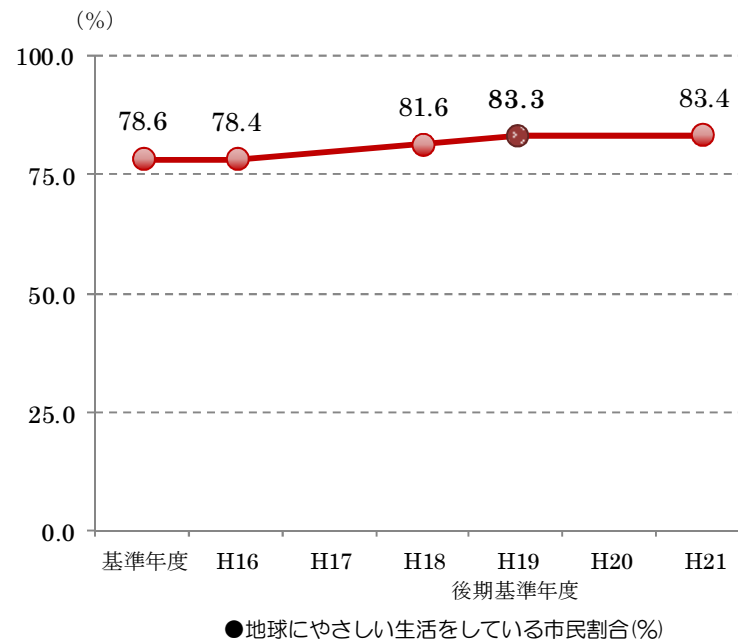
前期基本計画取り組み結果

私たちの地域を、安全で快適な生活環境とするために、環境負荷の少ない、より環境を重視した生活や活動が進むよう努め、また、環境保全意識を高めるための環境教育・学習などを進めてきました。

この結果、成果指標である「地球にやさしい生活をしている市民割合」は微増となっています。また、前期指標の「市民1人当たり二酸化炭素排出量」は、4年間で2.7%の増となりました。

安全で快適な地域環境を保つために、環境調査を行うとともに環境問題に対処してきた結果、公害の発生はありません。

施策成果指標の推移



後期基本計画の取り組み状況と目標達成見込みの説明

環境負荷の軽減を図るため、市民向けには市民環境講座や夏休み冬休み環境学校などを引き続き実施したほか、事業者向けには環境経営普及セミナーを開催し、環境保全の取り組み意欲と能力の向上に努めてきました。また、公害対策については、大気や水質などの監視を継続して実施してきました。

これらの取り組みにより、施策の後期目標についてはおおむね達成できると考えていますが、より安全で快適な生活環境となるよう、今後も継続して事業を進めていきます。

また、東日本大震災により市民の省エネに関する意識が高まっていることから、今後実施するアンケート調査では、地球にやさしい生活をしている市民割合などの指標がより上昇することも考えられます。

基本事業01-02-01 地球環境保全への取組

目的	地球温暖化防止等に向けて、環境負荷の少ない環境重視型生活・活動を行うことによって、地球にやさしい生活を送ります。								
対象	市民・事業者								
成果指標	省エネに取り組んでいる市民割合(%)	後期基準値(平 19)	47.9	現状値(平 22)	(H21) 50.3	見込値(平 25)	55.0 B	後期目標(平 25)	↗
	環境配慮活動に取り組んでいる事業所数(事業所)		25		30		31 A		30

基本事業01-02-02 安全な地域環境の保全

目的	大気、水質、騒音、悪臭などの環境問題に対応するとともに、市民・事業者へ情報を提供することにより、産業公害や都市・生活公害の発生を未然に防ぎ、安全で快適な地域環境を守ります。								
対象	市民・事業者								
成果指標	排出規制基準値超過事業所数(事業所)	後期基準値(平 19)	0	現状値(平 22)	0	見込値(平 25)	0 A	後期目標(平 25)	0

基本事業01-02-03 環境教育・学習の推進

目的	市民・事業者が環境に対する責任を自覚し、環境保全のための取り組みの意欲と能力を高めます。								
対象	市民・事業者								
成果指標	環境活動参加市民割合(%)	後期基準値(平 19)	12.3	現状値(平 22)	(H21) 14.1	見込値(平 25)	15.0 B	後期目標(平 25)	↗

A：達成見込み、B：おおむね達成見込み、C：達成困難

施策01-03 水とみどりの保全と創出活用

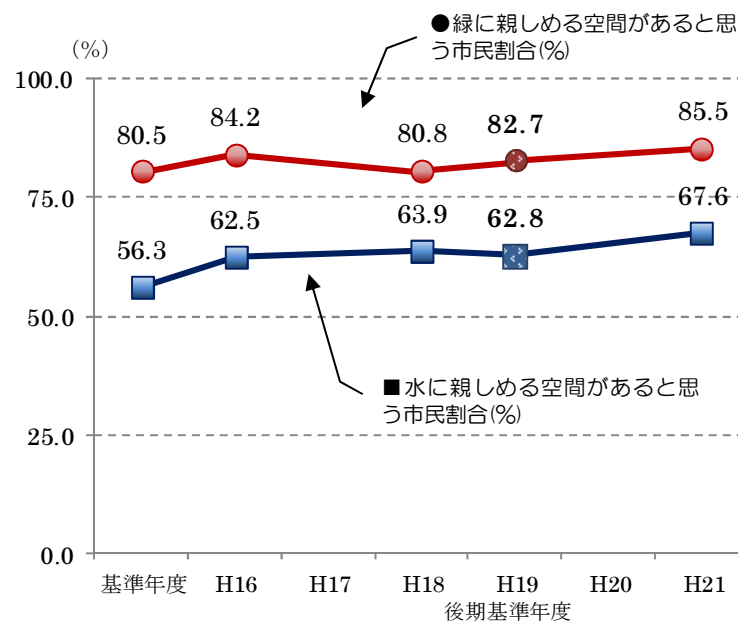
目的	市民・事業者・行政の協働により水と緑が豊かで、快適なまちを目指します。			
対象	自然環境(緑資源・水資源)・市民・事業者・行政			
成果指標 (施策の目的達成度を示す指標)	後期基準値 (平19年度)	現状値 (平22年度)	見込値 (平25年度)	後期目標値 (平25年度)
緑に親しめる空間があると思う市民割合(%)	82.7	(H21)85.5	85.5 A	↗
水に親しめる空間があると思う市民割合(%)	62.8	(H21)67.6	67.6 A	↗

前期基本計画取り組み結果

水と緑が豊かで快適なまちづくりを進めるため、第5次江別市総合計画にあわせて「緑の基本計画」を策定し、身近な自然や水辺の環境を守るとともに、うるおいのある緑豊かな街とするため、木や花を植え育ててきました。また、市民が水やみどりを感じ、触れ合える場所の提供に努めてきました。

成果指標である「緑に親しめる空間があると思う市民割合」については、ほぼ横ばいですが、「水に親しめる空間があると思う市民割合」については、若干増加する結果となっています。

施策成果指標の推移



後期基本計画の取り組み状況と目標達成見込みの説明

市民憲章推進協議会への花苗補助などを通して、緑と花の多い快適な環境の創出に市民と協働して取り組んできました。また、野幌森林公園をはじめとして、水や緑に親しめる自然環境は良好に保全されています。

施策の後期目標については、こうした取り組みにより達成できる見込みですが、今後とも地域緑化などに積極的に取り組んでいきます。

なお、基本事業の成果指標のうち、花のある街並みづくり事業の参加団体数は、花壇がない自治会があることや担い手が不足しているなどの要因が影響し、目標を達成することが困難な状況ですが、できる限り多くの団体に参加していただけるよう、今後とも手間のかからない多年草の活用を推奨していきます。

基本事業01-03-01 水とみどりの保全

目的	市民と事業者、行政が協働して地域の水と緑を守り、身近な自然環境や水辺環境を守ります。									
対象	自然環境・市民・事業者									
成果指標	地域制緑地(緑地保全地区等)面積(ha)	後期基準値(平19)	5,240	現状値(平22)	5,240	見込値(平25)	5,240	A	後期目標(平25)	5,240

基本事業01-03-02 水とみどりの創出活用

目的	市民・事業者が、木や花を植えるなど緑を育てるとともに、水辺を活用し水と緑を感じ、ふれあうことにより、潤いのある緑豊かなまちづくりを目指します。									
対象	自然環境・市民・事業者									
成果指標	花のある街並みづくり事業の参加団体数(件)	後期基準値(平19)	106	現状値(平22)	109	見込値(平25)	110	C	後期目標(平25)	120
	自宅で緑を育てている市民割合(%)	後期基準値(平19)	59.4	現状値(平22)	(H21)55.7	見込値(平25)	56.0	B	後期目標(平25)	↗